
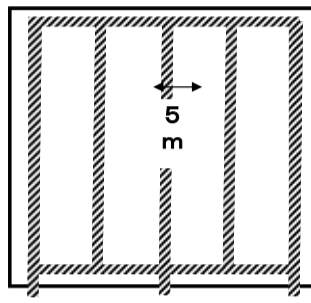

















小豆栽培こよみ

京都農業協同組合・南丹農業改良普及センター

2026年1月作成

| 時期 | 生育ステージ | 作業内容 | 使用資材・機械等 (単位:10a当たり) | 栽培のポイント |
|----|--------|-----------------------------------|---|--|
| | | ★ほ場の選定 ★ほ場準備 ★土づくり | 完熟堆肥 2t | ○ 連作を避け、高うねとして排水を良くする ○ 排水性、用水の便等を考慮したほ場選定 ○ ほ場全面にたい肥等を散布し、荒起こしを行う |
| 6月 | 上旬 | ★ほ場準備 |  | ○ 丁寧な耕うんによるほ場準備 (土塊は2cmまでに) 小豆栽培のポイント ① 水利と排水の良いほ場を選ぶ。 ② 土づくりを行う。 ③ 開花前から うね間かん水 を徹底 |
| | 中旬 | ★土壌改良資材の散布 ★茎葉除草剤散布 (又は耕うん) | 苦土石灰 100kg BMようりん 40kg | ○ 耕うん後は排水性を確保するため必ず額縁明きよ、排水溝をつける  明きよ排水 (額縁明きよ+ほ場内小排水溝) |
| | 下旬 | ★排水溝の設置 | | |
| 7月 | 上旬 | ★耕うん ★排水溝の設置 ★うね立て | 豆 豊 40kg または 豆 蔵 30kg  | 7月のポイント ○ は種までに必ず2回以上耕うん(雑草対策) ○ 耕うん後は必ずうね立て、排水溝設置し排水性を確保 栽培様式 (うね幅は中耕培土に使用する機械に合わせて調整する) ○ うね幅90cm×株間30cm、1条植 ○ 1株2粒まき 深さ3cm~8cm(干ばつ時) |
| | 中旬 | ★種子消毒・は種・ 病害虫防除・雑草防除 | 種子量 2.5~3kg | ○ 蔓化しやすいほ場は基肥の量を3分の2~半分に減らす ○ 7月15日~7月末に、は種を行う ○ 土壌条件が良いときに作業を行う (うね立てからは種の時期を短くするのも有効) ○ 土壌表面処理除草剤は、は種直後の土が湿った状態で散布 |
| | 下旬 | ★補植 (本葉1枚展開時まで) | | ☆ゲリラ豪雨に注意☆ 降雨後はうねや排水溝を直し、ほ場の停滞水を速やかに排水できるように努める ☆ホオズキ類対策☆ 小豆の生育を阻害し、収穫作業の妨げになる 小豆の出芽直前~出芽揃期(ホオズキ類の発生始期~発生揃期)の茎葉兼土壌処 |
| 8月 | 上旬 | 発芽期 | 小豆出芽揃期 ホオズキ類は発生始期  |  ヒロハフウリンホオズキ |
| | | | ★中耕・培土  | 8月のポイント ○ 初生葉まで土寄せを行い、細根を早く発生させる (根粒菌は細根に付き、開花までの生育を左右する) ○ 中耕培土、除草剤散布など雑草防除に努める ○ 中耕作業は2回以上行う 本葉4~5枚ごろ第1葉節まで土を寄せる ○ 必要な場合は2回目中耕前に追肥する ☆中耕・培土の効果☆ ① 土壌の保水力・通気性を良くして干ばつ害を防止する ② 根域が拡大し倒伏を防止する ③ 雑草対策 ④ 高うねによる湿害防止  うね間かん水  |

うね間かん水

| 時期 | 生育ステージ | 作業内容 | 使用資材・機械等 (単位:10a当たり) | 栽培のポイント |
|-----|--------|-------------------------------|--|---|
| 8月 | 中旬 | ★中耕・培土 ☆追肥(生育不良時) ★雑草防除 | 管理機等の利用 化成肥料17-0-17 10kg (基肥に豆蔵を施用した場合は施用しない) | ○ 中耕・培土は花が咲く時期までに行う ○ 開花後の中耕・培土は断根の原因となる |
| | 下旬 | 開花始 ★害虫防除 | | ○ つぼみや花を食害する害虫を防除 (ノメイガ類対策) |
| 9月 | 上旬 | 着莢期 ★病害虫防除 | | 9月のポイント ○ 雑草の徹底防除 ○ 秋に降雨が多い時や強風により葉がもまれたら殺菌剤で防除する ○ 若莢を食害する害虫を防除(ノメイガ類やヨトウ類等の対策) ○ 9月上旬に殺菌剤でさび病を予防 |
| | 中旬 | ★害虫防除 | |  さび病  マメノメイガ  ハスモンヨトウ ○ 莢を食入する害虫を防除(ノメイガ類やヨトウ類等の対策) |
| | 下旬 | ☆害虫防除 (ただし、収穫までの日数を考慮) |  ハスモンヨトウ  ノメイガ類  オオタバコガ  エビガラスズメ | |
| 10月 | 上旬 | ☆病害虫防除(必要に応じて) | | 10月のポイント ○ 高温により、害虫が多発する場合は防除を行う。 ○ 秋雨後は滞水させない ○ 収穫を急がない |
| | 中旬 | 成熟期 | 手どり・脱粒機の利用 | ○ 長雨後は場内を観察し、滞水があれば排水溝を直す ○ 必要があれば病害虫防除 ○ 莢は成熟したものから2回程度、手で収穫し8割成熟したら株ごと収穫する ○ 霜が降りる前にある程度の収穫を終わらせる ○ 手どりした莢は莢ごと乾燥させる ○ 脱粒後は日陰干しして、水分15%以下に仕上げる ○ 霜害等の被害粒は分別して出荷する ○ 出荷時に栽培履歴を提出する |
| 11月 | 下旬 | 収穫期 ★収穫・選別・出荷 |  |  |
| | 中旬 | | | |
| | 上旬 | | | |

※ 農薬の使用については、別添「小豆栽培での使用農薬」を利用してください。